

会議録

会議名	第10回松江市伝統文化芸術振興審議会
日時	令和7年10月1日(水)14:00~16:00
会場	松江市役所 3F「第2常任委員会室」 ※一部オンライン
出席者	委員
	出席委員 15名 【出席委員】 垣内恵美子会長、小泉凡副会長、石橋淳一委員、大隅宏明委員、大田美穂委員、 小野亮委員、小林准士委員、園山土筆委員、高屋茂男委員、田中藤一郎委員、 田中昌子委員、田中麻里委員、原田順子委員、松原慶子委員、森山俊男委員
	松江市(事務局)
	上定昭仁(松江市長) 桑原賢司(文化スポーツ部長)、今岡広樹(文化振興課長)、 加藤阿紀子(文化政策係長)、松本瑠美子(文化政策係主任)、
次第	1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 委嘱状交付、委員の紹介 4. 会長・副会長の選出 5. 議事 (1) 松江市伝統文化芸術振興計画 実施計画について ①令和6年度事業の実績 ②令和7年度の中間報告 (2) 今後の主なスケジュール 6. 意見交換 7. その他 8. 閉会

1. 開会

事務局 (桑原部長)	定刻になりましたので、只今より「第10回松江市伝統文化芸術振興審議会」を開催させていただきます。 議事に入るまで進行を務めさせていただきます。「文化スポーツ部」部長の桑原でございます。よろしくお願い致します。 本年度、第1回目となります本日の審議会は、一部オンラインでの開催とさせていただきます。 オンラインで参加されております小野委員、こちらの声が聞こえていますでしょうか。
---------------	---

	<p>本日の審議会は、タブレットに事前送付した資料等を保存していますので、議事の参考に御覧ください。タブレットに換えて、紙の資料が良い方は、お知らせください。また、タブレットの不具合や操作方法が分からない等、会議進行にあたって不都合な点がございましたら、随時お申し出ください。</p> <p>続きまして、会議での注意事項について説明します。</p> <p>発言される場合は、挙手をしてください。事務局または会長が発言者を指名しますので、最初にお名前を言っていただいた上で、ご発言いただきますようお願いいたします。</p> <p>小野委員は、発言をされる場合にのみ「ミュート」解除していただき、最初にお名前を言っていただいた上で、ご発言いただきますようお願いいたします。発言の終わりには「以上です。」とお知らせいただき、「ミュート」にしてください。</p> <p>本日の会議は、「審議会等の会議の公開に関する要綱」に基づき「公開」の会議とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。また、会議録作成のため録音いたします。</p> <p>なお、本日は16時00分を終了予定としております。</p> <p>委員の皆様からのご意見をいただく時間をできるだけ確保したいと思っておりますので、事務局からの説明は、極力短くさせていただきます。不明な点等がございましたら、質疑や意見交換の際にいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、開会にあたりまして、上定松江市長よりご挨拶を申し上げます。</p>
--	--

2. 市長あいさつ	
(上定市長)	<p>松江市伝統文化芸術振興審議会委員のご就任をお引き受けいただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>以前から引き続きの方、また新任の方も、8月31日から令和9年の8月30日まで2年間、何卒よろしくお願いいたします。</p> <p>新任の方に申し上げておきますと、いつも熱い議論をさせていただいておりまして、2時間がすごく短いものでございます。我々の説明も短めにさせていただき、ぜひ委員の皆さんと議論をしたいと思っております。</p> <p>早速ではございますが、一昨日から「ばけばけ」が始まりました。私もネットで随分と見ておりますが、画面が暗い、俳優が豪華人で素晴らしい、また今日は、「うさぎビジネス」の金成さんが大橋を渡って連行されてしまい大丈夫かな、など非常に話題が上がっています。</p> <p>「ハンバートハンバート」が「笑ったり転んだり」という主題歌を歌っておりますが、第1回放送と第2回放送で歌詞が違いました。第1回目が歌の2番で、第2回目が1番でした。</p> <p>そういった、きめの細かいリリースもなされていて、「ばけばけ」が実際、とても話題になっているということは大変嬉しく受け止めているところでございます。</p> <p>小泉凡委員におかれましては大変お忙しいところ、ご出席いただき本当にありがと</p>

	<p>うございます。</p> <p>この「ばけばけ」が千載一遇のチャンスとなり、宍道湖や松江城といった松江の街並みが初回からたくさん登場し、松江市のことを知っていただく機会になっております。</p> <p>また松江市民が松江に対する愛着、或いは誇りを育む機会にもなると思っておりますので、ぜひ、伝統文化芸術の発信の1つの大きなトピックにしていきたいと思っております。</p> <p>そしてもう1つは、今年7月8日に、松江城が国宝指定を受けましてから10周年を迎えました。松江市としても、この機会をとらえまして様々なイベントを行っております。</p> <p>6月の末には2日間にわたり、従来パシフィコ横浜で毎年やっている「お城EXPO」の特別版を本市で開催いたしました。2日間で6,281人の方に来ていただき大盛況でございました。</p> <p>俳優の高橋英樹さんにも来ていただき、お城についての話をさせていただきましたし、私を含め、国宝5城が立地しております5つの市の市長が集まりまして、「お城サミット」というものをやらせていただきました。</p> <p>それに加えて、松江城を雲海で幻想的に包むというイベントも開催いたしました。「雲海松江城」というイベントですが、これは由志園さんが持っている技術を頂いたものです。熊本城や椿山荘などでも由志園さんにやっていますので、初めて松江に逆輸入したところ、8,000人の方に有料にもかかわらず訪れていただき、松江城の魅力を発信する大変良い機会となりました。</p> <p>伝統文化芸術をどのようにして、特に若い世代の皆さんに我々が引き継ぎ、またその魅力を受け入れて、さらに発展させていくかというのは非常に難しいテーマでございます。先祖代々我々が受け継いできた松江にある資産に磨きをかけることが、我々のまちの発展につながっていくと感じております。</p> <p>伝統文化芸術振興計画の第二期実施計画を今年度から施行しており、今回は令和6年度実績と7年度の間接報告をさせていただきます。</p> <p>ぜひ皆様から忌憚のないご意見をいただきまして、さらにこの計画の精度を上げ、実効性を持って伝統文化芸術の振興を図っていきたく思っておりますので、皆様のご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。</p>
--	--

3. 委嘱状交付、委員の紹介	
事務局 (桑原部長)	<p>つづきまして、次第の3番目、委嘱状交付と新任委員紹介に移らせていただきます。</p> <p>「松江の文化力を生かしたまちづくり条例」第8条に基づく、審議会の委員の皆様です。本来ですと、この場でお一人ずつに委嘱状を交付させていただくところですが、会議時間が限られておりますので、皆様のお手元に委嘱状をお配りさせていただいております。</p> <p>委員の皆様の任期は、令和9年8月30日までの2年間となっております。どうぞ</p>

	<p>よろしくお願いいたします。</p> <p>また本日は、新任の委員がおられますので、新任の委員におかれましては、一言自己紹介をいただけますでしょうか？</p> <p>まずは大田 美穂委員からお願いします。</p>
(大田委員)	<p>皆様、はじめまして。本日は大田美穂という名前はこちらに出ておりますけれども、普段はハイソニャーというユニットでハイ子という名前です。</p> <p>皆さん「はてな？」が頭の上に浮かんでいるかもしれませんが、いつも漫画を書いております。</p> <p>その漫画の中では、松江の普段の日常の暮らしや文化をテーマとして多く扱っているので、このような機会を大変嬉しく思っております。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>
(田中藤一郎委員)	<p>松江市公民館長会から参りました、鹿島公民館館長の田中藤一郎でございます。</p> <p>鹿島町には、佐陀神能、そして「子ども佐陀神能教室」などこどもの育成や、伝統文化の継承にも力を入れております。よろしくお願いいたします。</p>
(田中麻里委員)	<p>皆様こんにちは。松江市民劇場の副会長をしております田中麻里と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>松江市民劇場を知っている方もいらっしゃると思いますが、演劇を観る会で、間もなく65周年を迎えます。歴史のある会であり、会員数は今570名と若干減ってきております。</p> <p>11月27日には「夜の来訪者」の上演がございまして、本日チラシを持ってこなくて大変残念ですが、皆さんにご案内させていただきたいと思っております。会員制の会ですので、ぜひ会員になっていただきたいという思いもありますが、私どもはお芝居のことを例会と言っており、11月27日の「夜の来訪者」で400回目の鑑賞会を迎えることとしております。</p> <p>こうして芝居を見る文化活動をずっと続けており、今回この委員会に参加させてもらうのも、この松江市劇場の会で、自分たちの声を届けて欲しいということで参加させていただくことになりました。</p> <p>いろいろな分野の方のご意見をお聞きできるのを大変楽しみにしております。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>
(松原委員)	<p>島根半島宍道湖中海ジオパークで認定ジオガイドとして活動しております、松原慶子と申します。</p> <p>松江出雲のエリアでしたらどこでもガイドできますが、美保関それから、大根島の龍溪銅の洞窟でガイドをすることが多くなりました。</p> <p>「出雲国ジオガイドの会」という、認定ガイドだけで組織された会を持っておりますけれども、こちらはいろいろな企画ツアーをしておりまして、来月は、「ヘルンとセツのジオツアー」ということで、出雲大社周辺を歩き、小泉八雲さんが感じた視線を皆さんと共有しながら、ジオを楽しもうというツアーを企画しております。</p> <p>どうぞよろしくお願いいたします。</p>

4. 会長・副会長の選出

事務局 (桑原部長)	<p>続きまして、次第の 4 番目、会長・副会長の選出でございます。条例第 10 条第 2 項の規定により、会長と副会長を互選によって選出していただきたいと思ひます。</p> <p>会長と副会長の選出にあたりまして、皆様からご推薦等はございますでしょうか。</p> <p>《推薦なし》</p> <p>無ければ、事務局にて腹案を持っておりますが、ご提案をさせていただきたいと思ひます。</p> <p>《委員賛同》</p> <p>それでは事務局からご提案いたします。</p> <p>会長には、政策研究大学院大学の垣内委員、副会長には、小泉八雲記念館の小泉委員にお願いしたいと思ひます。よろしいでしょうか。</p> <p>《委員賛同》</p> <p>それでは、会長には垣内委員、副会長には小泉委員にお願いさせていただきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>では、垣内会長と小泉副会長は、席のご移動をお願いします。</p> <p>垣内会長と小泉副会長、一言ずつお願ひいたします。まず、初めに垣内会長お願ひします。</p>
(垣内会長)	<p>本会議の進行を務めさせていただきます、垣内です。どうぞよろしくお願ひいたします。</p> <p>昨年度で第 1 期の実施計画が終わりまして、本年は第 2 期の実施計画新年度ということになります。第 1 期に種をまいた様々な文化伝統というものが、第 2 期の本年から育まれていく、育てていく、そのようになっていくかと思ひます。</p> <p>新しく着任された委員の先生方とも、市長のご挨拶にもありましたように、内容が濃い、そういう議論の場にしていきたいと思ひます。</p> <p>どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
(小泉副会長)	<p>副会長を務めさせていただきます小泉凡と申します。</p> <p>市長さんからもお話ありましたように、今「ばけばけ」関連の対応が忙しく、とても慌ただしい日々が続いております。さて、改めて、松江には 7 つの柱を持つ重要な伝統文化がございますので、どうやってそれを振興していくといいか、こういう機会に皆様と一緒に考えていきたいと思ひます。</p> <p>また大変微力ながら垣内先生のお手伝いできればと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
事務局 (桑原部長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、ここからの進行は、条例第 11 条第 2 項の規定により、会長が議長とな</p>

	ることとなっておりますので、垣内会長にお願いさせていただきます。
--	----------------------------------

5. 議事	
(垣内会長)	会長を仰せつかりました垣内が進行させていただきます。 次第の5番目「議事」について、事務局から説明をお願いします。
事務局 (加藤係長)	<p style="text-align: center;">《説明》</p> (1) 松江市伝統文化芸術振興計画 実施計画について ①令和6年度事業の実績 ②令和7年度の中間報告 (2) 今後の主なスケジュール
(垣内会長)	ありがとうございました。ご意見や質問等ある方は発言をお願いします。この後、意見交換を予定していますので、そこでご質問いただいても構いません。

6. 意見交換	
(垣内会長)	それでは、続いて次第の6番目 意見交換について事務局より説明をお願いします。
事務局 (今岡課長)	<p style="text-align: center;">《説明》</p> 松江市伝統文化芸術振興計画 第2期実施計画で設定する4つの課題について
(垣内会長)	<p>それでは、事務局からの説明などを踏まえ、意見交換をさせていただきます。</p> <p>ただいま事務局から説明がありましたとおり、7つの分野に分かれている計画ですが、課題というのが、第1期の最後にまとめた課題です。</p> <p>事務局から説明がありました、この4つの課題、事務局的には非常に気になるところでありますので、それぞれの委員の視点、またご経験も踏まえいろいろなお知恵を拝借したいということです。</p> <p>委員の先生方お1人ずつご発言をちょうだいしたいと考えておりますが、限られた時間ですのでお1人4分、長くても5分程度でお願いできればと思います。最後は私で時間調整をさせていただきたいとは思いますが、そのお時間を念頭に置きながら、ご発言をちょうだいしたいと思います。</p> <p>なお、恐縮ながら発言は五十音順ということで、進めて参りたいと思います。</p>
(石橋委員)	<p>先ほどご報告があった中で気になったところがありますので言わせていただくと、地域に根づく伝統文化のところ、「松江市伝統芸能祭」について「にぎわいのあるものだった」ということでした。私はいろいろな舞台を体験しておりますが、あのときは非常に人が少なかったなど、すごく残念に思った次第です。</p> <p>そういうところを反省し、意見収集して進めていかないと、やっただけではつまらないと思います。</p> <p>やって終わった、2年後にすればいい、という感じになってしまったら、せっかく血税を出してやっていただいても、市民の方に申し訳ないと思っております。</p> <p>できるのであれば、参加する団体もそうです、もっと意見交換をしていいものをや</p>

	<p>っていただきたいなと思います。</p> <p>それから後継者、担い手の育成というところでご説明ございました。私ども伝統文化芸能に関わる団体としまして、いろいろな意見を言いますけども、必要なことに対してあまりにも支援していただけていないと思います。</p> <p>皆さん頑張っていると思いますが、我々も一生懸命やって伝統文化を守ろう、発信していこうとしています。</p> <p>特に我々佐陀神能は、先日ヨーロッパのユネスコ友の会から、神社においでになられた際に、面をコレクションとして加えたいということで、すごく感動して、素晴らしいものが日本にあると言われました。</p> <p>もっとコレクションとして加えたいと言っていたいただきましたが、こういった民俗芸能など非常に素晴らしいものがあり、外からは評価されますけども、地元の方、市の方ですが、あまり評価されないところがあります。</p> <p>市長が初めて佐陀神能をご覧になったときに「海外へ行かれませんか」と言われました。ヨーロッパの方がおっしゃるのは、自国の文化を海外に発信するのが普通だと。なんで島根県松江市はそういうことしないんだ、と言われました。その方もぜひ交流したい、海外にも発信していったらどうか、とも言われました。</p> <p>市長の考えも合っているし、とてもチャンスだと思いますので、ぜひ我々を使って世界、そして日本にもアピールしていただきたいと思っております。</p> <p>そのためには長期スパンの計画が必要で、伝承に関しても道具なども揃えることも大事になりますので、そういった伝統文化に関して基本的な基本計画を作っていないといけないと思います。基本計画を作った上で、いろいろアピールをすとか、人を育成すとか計画をしていかないといけない。民俗文化財保存プログラムがありますので、それをぜひやっていただきたいと思っております。</p> <p>そうすれば、いろいろな素晴らしいものがあるということで、アピールできる資金を援助しようということにもなっていくし、こどもさんがやってみたいな、日本を代表するものなのだなとか、他にも地元には「どう行列」や「国宝松江城」があるとか、勉強もできるわけです。</p> <p>まずは、そのようなチャンスを広げていただきたいのと、行政の方の認識をもう少し高めていただきたいなと思います。</p>
(垣内会長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>大切な文化財ということですが、こういったものに国や独立行政法人とかですね、国際交流基金とか、いろいろな形で資源のフレームもありますのでお使いいただくとよろしいかなと思います。</p>
(大隅委員)	<p>私ども音楽のマネジメントや企画をしておりますが、関係する音楽団体など見ますと、やはり共通して、担い手、後をどうしよう、という声が出てきます。</p> <p>担い手というのは、すぐに育つものではないですが、第1期にありました、まず、体験というものがあって出会いがあってそこから育っていくと思います。そこに大きなリーダーがいて、指導者がいて、そして、どんどん成長していくと。</p>

	<p>その一番大きく伸びる成長期というのが、高校から大学ではないかなと思っております。</p> <p>資料を見ると、大学よりも 20 代 30 代のところを重点的に取り組むということになっていますが、実はその前に、主体的な取り組みが大事なのかなと思っています。</p> <p>そのために何かステップを作ってあげないといけないと思っており、それが地域での交流もそうですが、やはり全国的に著名な方を呼んで、そこでミッチリやるなどの経験を積むこと、「私にもできる、挑戦しよう」という感覚や機会があるといいなと思っています。</p> <p>これから子どももそういうことを注視しながら、高校から 20 代 30 代あたりの人たちにどう機会を与えるということを考えていきたいと思っています。</p>
(垣内会長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>担い手を作るというところで、少し年齢層の幅を広げるとのご提案をいただきました。</p>
(大田委員)	<p>私は小学生の子どもを育てている世代ですが、子どもに対する取り組みが多く、一人の松江市民の親としてすごく心強く感じました。このような子どもに対する取り組みが重要だと思っています。</p> <p>また、子どもだけでなく、親も知る。私は宮城県から松江の文化を全く知らずにこちらに来ましたが、学ぶことや体験するということについて、学びのグループサイズが大きいということは、効果があると感じています。</p> <p>仕事の中で、子育て世代に対する情報関係の仕事をしていますが、そのなかで、イベント・遊ぶ場所が少ないという意見が、松江市に限らず島根県全体から寄せられます。こういった需要に対しても、このような体験イベントがマッチしている状態です。</p> <p>もう一步、何か進みたいなという気持ちもあるけれども、まず、体験する、触れる、知るところから、もっと知る、深く知る、中に入っていくこと。保護者さんがもしかしたら後継者不足の解消につながるような世代の方もたくさんおられるので、子どもさんだけでなく、大人にも学びのある場となって、さらにもう一步進めるような、何か次のアクションへ繋がるような取り組みであるとか、情報発信のなかにもう一步深く進めるようなところがあると何か変わってくる、ただ体験する、知る以上のこともあるのではないかと思います。</p>
(垣内会長)	<p>体験の深化というか、体験を深めることの重要性についてのご意見でした。</p>
(小野委員)	<p>前回は SNS の発信、情報発信が結構肝でありました。</p> <p>資料編の 17 ページ後半に「伝統文化や文化芸術の振興のために何が重要だと考えますか」という市民アンケートでも、情報の提供・発信というのが、ダントツで 1 位です。</p> <p>課題として情報の発信というのは、前回もお話が出ていたと思います。私もそのときに、発信の仕方がよく分からないのではないかと、そういう講習会とかやったらどうでしょうか、というようなこともご提案させてもらったと思いますけれども、その後、そのあたりの SNS の発信について何かされていますでしょうか。</p>

	<p>それと、やはりSNSの発信で、9時～5時では対応しきれないと言われていました。企業がなかなか個人の若者たちのSNSに勝てない大きな理由として、若者たちは24時間、自分のポストに対していろんなコメントをくれる人達に、リツイートしたりコメントを返したり、「いいね」をすぐしている。スマホ依存のような感じにはなっているけども、だからこそ、あそこまで成長していくと。</p> <p>企業だとやはり9時～5時の空いてる時間にSNSを投稿します。それだと当然成長はしないです。</p> <p>だからSNSの活用とひとくちで言ってみても、なかなか難しいと思っています。であれば、専門部隊を作るでも何でもいいんですが、もう24時間ずっとスマホを手放さずにとり止めもなくやっている。そのようなことも何か組織として作ってしまうというのは1つの手かなと思ったりもします。</p> <p>SNSは土日の方がアクセスが集中します。土日を休むのではなくて、その間の情報発信をどうすばいいかということ議論いただければいいのではないかと思います。</p>
(垣内会長)	<p>現状のSNS活用についてで、部局の方から補足のご説明はございませんか。</p>
(今岡課長)	<p>小野委員、貴重なご意見いただきましてありがとうございます。</p> <p>SNSの有効活用というところで、情報発信の仕方についての講習会は現在のところ実施しておりません。</p> <p>私どもが今取り組んでおりますのは、まず文化関係のイベントにつきましては、SNS、ホームページ等を活用させていただき、積極的に発信させていただいております。けれども、今おっしゃっていただきました通り、情報には旬があり、発信されるタイミングが反応していただきやすいところであるか、そうでないかによって価値が変わってくるということだと思っております。</p> <p>できるだけ土日のイベントも早いタイミングで出すということを心得ておりますけれども、この出し方と、見せ方、またタイミングというところにつきましても、職員の意識で変えられるところと、組織的に何か「てこ入れ」ができるかどうかというところを検討していければと思っております。SNSの有効活用というところで、情報発信の仕方についての講習会は現在のところ実施しておりません。</p> <p>私どもが今取り組んでおりますのは、まず文化関係のイベントにつきましては、SNS、ホームページ等を活用させていただき、積極的に発信させていただいております。けれども、今おっしゃっていただきました通り、情報には旬があり、発信されるタイミングが反応していただきやすいところであるか、そうでないかによって価値が変わってくるということだと思っております。</p> <p>できるだけ土日のイベントも早いタイミングで発信することを心得ておりますけれども、この出し方と、見せ方、またタイミングというところにつきましても、職員の意識で変えられるところと、組織的に何か「てこ入れ」ができるかどうかというところを検討していければと思っております。</p>
(小林委員)	<p>大学で、江戸時代の思想とか宗教とか文化を専門として教えています。そういう関係で今年に関してはNHKのドラマがどういう展開になるのか、ヒヤヒヤしながら見て</p>

	<p>います。</p> <p>今、松江では「ばけばけ」が話題ですけれども、大河ドラマ「べらぼう」もやっています。そこに蔦屋重三郎が出てきますが、その中で「須原屋市兵衛」の物語も書かれています。ちょうどドラマの中は「寛政の改革」で、須原屋市兵衛が松平不昧の「古今名物類聚」という茶道具を出しますが、それがドラマに出ないかなと思っているところです。</p> <p>それと山東京伝が出てきていますが、不昧公の父親の宗衍(むねのぶ)や弟の衍親(のぶちか)は山東京伝と大の仲良しで、深川でよく遊んでいたようです。そのあたりを少しNHKが取り上げていますが、「べらぼう」の世界と松平不昧公の世界は深く関わっているんだよ、ということがどこかアピールできたらいいなと思っています。</p> <p>「ばけばけ」については松江市で精力的にアピールされています。今日も冊子をいただきましたが、1回きりの取り組みというのではなくて、これが継続的なアピールに繋がっていけば、なお素晴らしいのではないかと思います。</p> <p>市役所の北側のところにあった旧田野医院は今、指定文化財になっておりますが解体され、今は目に見えない状況で保存されています。ですがそういったものも活用していくという余地があると思っています。その旧田野医院も小泉八雲や友人の西田千太郎と、病気の治療において関係があります。</p> <p>それから新雑賀町には、町内会の方の頑張りにより、小泉八雲が非常にお世話になった英語教師である西田千太郎の家が残っています。ドラマでは吉沢亮さんが演じられますが、残念ながらちょっとまだ文化財としては生かしきれてないというところもあり、建物もかなり傷んで雨漏りしている状態なので、今クラウドファン্ডをしてお金を集めて、地元の人なんとか盛り上げています。そういったところがもう少し実を結んでちゃんと整備されて、ゆかりの地として見てもらえるような状況が、継続的にできていくといいのではないかと感じています。</p>
(垣内会長)	<p>文化財の継続的持続的な保護と活用というところ、非常に重要なご指摘かと思えます。</p>
(園山委員)	<p>私は小野委員に来ていただいて、SNSの広報を教えてくださいたいと思います。以前、しいの実シアターで小野委員は全国公立文化施設協会の助成金を活用し、無料で来ていただいたことがあります。その時は難しくてよく分からなかったのですが、今お話を聞けば、スイスイとわかってくるかなと思います。</p> <p>例えば今、ここに集まった人たちは、本当に皆さん一生懸命やろうとしてる人たちばかりです。皆さんそれぞれに悩みを持っていて、この会で1年に数回会って、こうやって意見を出すだけはいつももったいないと思っています。</p> <p>何かこの後か、別にお酒があってもなくてもいいわけですが、もっとざっくばらんに「おたくはどうやっているの、うちはこういうふうにやってるんだよ。それは簡単だから教えてあげると」というようなことがやれないだろうか、今日はつくづく思いました。</p> <p>今年の11月に八雲国際演劇祭をやります。この国際的なイベントはもう20年以</p>

	<p>上やっていますが、いま物価高で今年の大きなネックは、入場料 3,000 円が高いと言われます。私たちは5,000円・6,000円でもいただきたいと思っているなかで、2,000 円・3,000 円という金額でやっています。要するに他のものがものすごく高くなっているから、今はそれにお金が出せない、そういう厳しい現実ということを感じます。</p> <p>ぜひ小野委員には、勉強のチャンスを私たちが作って、来ていただいて、分かりやすく、素人にもわかるようなSNSの広報のやり方を、もちろん我々だけでなく、たくさんの人を誘い、いろいろなことを勉強させていただく機会があるといいと思います。</p> <p>それから後継者の担い手です。実は最近小学生、中学生から「演劇ってなんですか」と聞かれます。つまり、1 度も見たことがないのです。</p> <p>この間、六日市中学校に授業で行き、演劇を使ったコミュニケーションワークショップをやりました。その時に、中学生が「演劇って何ですか」と、ふっと踏み込んだんです。こどもたちに演劇というものをいかにわかりやすく、一言二言でどう伝えようかと思いました。それほど演劇を見たことない。今のこどもテレビも見ませんから。ドラマも見ません、他の方法では見るかもしれませんが。</p> <p>そして、今月益田のグラントワ、島根県立の大きな劇場ですが、そこに我々、劇団あしづえの「セロ弾きのゴーシュ」という作品を呼んでもらうことになりました。それはグラントワの開館 20 周年ということで、招待されましたので行きます。</p> <p>実はこの作品は 36 年やっておりまして、少しずつ成長し、宮沢賢治学会からも招待を受けているような作品です。220 回目をグラントワでやろうと思っていますが、一般公演は 400 席のところへ、まだ 100 数十人しか入らない、なかなか切符が売れません。</p> <p>ところが、その次の月曜日の午前と午後に、劇場の人たちが頑張って益田市周辺の 24 の小学校中学校から、5年生6年生、中学 1・2・3年生、つまりセロ弾きのゴーシュを観て、一番いい年代のこどもたち800人を呼び団体観劇をします。このように、一般公演をするときに、もう1日長くやって、学校のこどもたちを呼ぶことができます。</p> <p>実はこれ、しいの実シアターでやってみまして、今回の国際演劇祭のチラシでも、長い期間が書いてありますが、平日はこどもたちに来てもらうようにしました。一般の大人のお客さんのための経費をもう少しだけ増やして、こどもたちに見るチャンスを与えるということをやっております。</p> <p>こどもたちは小さいときに経験がないと、決して大人になって演劇をするわけではありません。野球にしてもサッカーにしても、こどものときからやってるから、ずっとその後、ファンでいたり、自分でやろうとしたりするわけです。</p> <p>そのようなことを、もっとみんなで「ああだこうだ」と言って話合う機会をつくりたいと思っております。</p>
(垣内会長)	<p>こどもの体験格差という、国際的にも非常に深刻になってきていると言われております。</p> <p>委員の方々の様々な知見を共有したい思いもちょうだいしました。どういう形でう</p>

	<p>まくいくのか、事務局の方で、今後考えていただければと思います。</p>
(高屋委員)	<p>私の職場と共通してくるような問題でもありますが、例えば、小野委員の話にもありましたが、SNS での情報発信について、松江の文化フェスタの情報なども最近 SNS で広告されるようになったかなと思います。多分私がこういう情報を求めているからかなというふうにも思いますが、そういう意味では、求めている人のところに情報が届き始めているということで一歩前進ではないかなと思います。</p> <p>ただそれに対して、例えば市のホームページ一番下の方に、イベントカレンダーのページが出てくると思いますが、そういったところには、あまり情報が入っていないと思います。</p> <p>市としては広報などで様々な施設でいろんなイベントがある情報を集めていると思いますが、そういった情報をうまく連携して、市のホームページのトップのところに上がってくるよだといと思います。</p> <p>システムの1個1個増やしていかないといけないことになると、やはり手間になるので、システムの楽にできるような方法であればそうしたほうがいいですし、できなければPDFでも、10月イベント・11月イベントのような形で、広報の情報を上手く使って、トップのほうに上がってくるよだといかなと思います。</p> <p>市の施設でも、たくさんのイベントをあちこちでやっていて、そういったものを集中的に宣伝していくか非常に難しいと思います。風土記の丘でもイベントをする際、集まるイベントもあれば集まらないイベントもあり、そういった差をどうするのかということとは難しく、直前になって慌てて宣伝して、バックアップすることがあります。</p> <p>そういうところを1歩1歩進めていただければと感じました。</p>
(垣内会長)	<p>情報発信の在り方について、様々な角度からご意見いただきました。</p>
(田中藤一郎委員)	<p>市内には29公民館あり、この中の取り組みの1つに伝統文化継承があります。鹿島公民館では、今年の2月に、他の公民館に先駆けて、私の知り合いである宍道正年さんが講演会をさせてほしいと言って来られました。「どこか1つでやれば、火が付いたようにマスコミで伝わって、どんどん広がるからお願いします。」と言われたので、やってみましょうかということで、小泉八雲とセツの講演会を宍道正年さんを講師に行いました。</p> <p>テーマは、「鹿島町での足跡」と、やはり自分と住んでるところと関わりがないとなかなか人も集まらないので、「鹿島町と、或いは島根町と島根半島と小泉八雲とセツ」というテーマでやりました。「佐陀神社・加賀の潜戸」という形にしました。</p> <p>そうしましたら、町内はもちろん、出雲市からもこられまして、定員を軽くオーバーしましたが、そこは余裕を持つことで受け入れられました。</p> <p>そしてさらに、講演会後の宍道さんの著書も完売し、注文もあるくらい好評でした。</p> <p>ぜひ、2弾をやりたいということですので、年度内にやろうと思っていますが、言いたいことは、公民館を使って伝統文化を広げていったらどうか、ということです。</p> <p>忙しいですけれども、何らかの形でできると思います。29の公民館を使いますと、松江市内をすべて網羅できるので、そういうものをもっと増やされてもいいのかなと</p>

	<p>思っています。</p> <p>それから公民館は住民密着型です。例えば、すべての地域に伝統文化が残っています。鹿島ですと「左義長、大漁旗、祝い唄、盆踊り」などが地域に残っています。鹿島公民館でやっているのは文化祭での発表などいろんな場で伝えようとしています。</p> <p>それに関連しまして、市の補助金で伝統文化を記録に残して次世代に残そうという事業がありました。ちょっと言いにくいですがけれども、活用が少なかったんじゃないかなと思います。</p> <p>感想を聞いてみたところ、すいません、つらいことを言いますが、「手続きが大変だ、補助金が少なく使い方にも制限がある」と言っていました。</p> <p>これは行政では仕方ないですがけれども、無理かもしれませんが各公民館に、例えば10万円を出して「10万円使ってやってみてくれ」と言われたら、絶対違ってくると思います。無理なところもありますけれども、考えてみるのもいいかなと思いました。</p> <p>それからもう1点、SNSを使っての情報発信ですが、地域ではやはり難しいところがあります。というのも、高齢者は使われません。SNSでやっても、パソコンが使えない、スマホが使えない、そういう方がたくさんいらっしゃる、なかなか広がりません。そこで私たちがやっているのは、各地域での集まりの時に紙ベースでチラシを持っていき説明しています。それから窓口で職員が口コミで、「こういうのがありますがどうですか」というように伝えています。</p> <p>今の流れとしましては、SNS、ホームページ、そういったところで情報を流しているから伝わっていると思いがちですが、これは現場から見ると、難しいところがありますので、何らかの形で工夫して、こどもから高齢者まで、情報が伝わるような方法を考えていくことも必要かなと思います。</p>
(垣内会長)	<p>公民館の重要な役割について改めて、ご意見をちょうだいしたかと思います。</p> <p>私、政策研究をするものですから一言申し添えると、自由に使える公金は難しい、ほぼない、と思っていただいた方が良くと思います。</p> <p>納税者の立場となったときに、何に使われるかわからないけれども、役所を経由してどこかにお金が不透明に流れるということは、21世紀になってから制度上は無理だとお考えいただいた方が現実的だと思います。</p>
(田中藤一郎委員)	<p>手続きとか、使いやすいような工夫をしていただきたい。</p>
(垣内会長)	<p>手続きについてはまたいろいろ工夫の余地もあるかと思いますが、そこは事務局のほうで検討いただければと思います。</p>
(田中昌子委員)	<p>皆さんと重複しますが、情報発信について、口コミなどありますが、情報発信をされても、受けとめる側が、それを体験や体感していないと、どんな情報を言われてもピンとこないということはあると思います。</p> <p>園山委員もおっしゃったんですが、体感する、体験するということがあると、例えば、しいの実シアターに1度でも行ったことがある人が、どこそこの話と言われたときに「ああそうだね。」と言えるでしょうし、グラントワに行ったことがある人は、グラン</p>

	<p>トワに150人は少ないよね、と自分の中のイメージができると思います。</p> <p>私が何を言いたいかというと、それは若い世代、こどもたちもそうですが、半ば強制的に、体験・体感するような場面を作って、そこでバーチャルではない実際の三次元として、本当にそこの空気とか広さとか、自分の視界の中で感じるような、空気感や匂いも含めて感じる事が、次の情報発信が有意義になると思います。</p> <p>SNSでの情報発信とアナログでの発信、そういうところを両輪で進めていかないと、この話は永遠に続くと思います。</p> <p>私はSNSを半分やりながらも苦手な人間ですので、紙ベースもありがたいですし、口コミはもっと嬉しいという世代です。まずそこをいい形で、アナログとデジタルを上手く絡めていかないと伝わらないなと思います。</p> <p>それから先ほど西田千太郎旧家の話がありましたが、実は私ども建築士会は松江市から、歴史的建造物調査を請け負っておりまして、現在、美保関町のことを進めております。</p> <p>前に宍道町のこともやりましたが、残念ながら西田千太郎さんの家ができなかったのは、西田千太郎の家が城下町から若干ずれていて、市から受託ができず調査ができないまま、そして他の団体の方が結局調査されています。</p> <p>なかなか市のお金で、市民が納めた税金で、ここもあそこもというのは難しいと思いますけれども、今は美保関町にいろいろ重心があって、その勉強会もさせていただいて、重要伝統的建造物群保存地区の指定を受けるように進めているところです。</p> <p>それともう1点、ある若い世代の方が言われていましたが、カラコロ工房ってあんなに良い建物なのに、なんでどんどんお店が変わっていくのだろうと。</p> <p>閉店したり名前が変わったり、この間あったお店に行ったらもうないよ、とか。そういうことがなんでだろうと思ったら、あそこはやはり単発になるんです。</p> <p>もう何十年前から松江駅から松江城、それから宍道湖畔までのルートということは言っていますが、カラコロ工房もすごく素敵なところですけども点でしかないということです。どこからどう行ったらカラコロ工房へ行けるのと。</p> <p>せっかく「ばげばげ」で、松江というのが脚光を浴びていますので、あそこの回遊ルートをもう少し真面目に考えると良いと思います。</p> <p>例えば、島根県立美術館の「葛飾北斎展」で、県外の方もたくさんいらっしゃるなど駐車場で感じましたけれども、そういった方が次のステップに行くのには、点のスポット的ではなくて、もう少しうまく広げて、松江城・カラコロ工房・カラコロ広場とか、大橋川とか、そういった「ゆかりの地域」も含めて、散策ルート、トレイルを面的に考えていく。</p> <p>やはり外からお金も入らないと、中だけで自給自足してもいけませんので、外からのお金も得るために考えていくと、もうやっているかもしれませんが、若い方の意見を入れると、担い手とか後継者の新たな意見が出たりとか、そういったことならやってやるよという資金も確保できたりなど、広い芽が出るのではないかと思います。</p>
(垣内会長)	文化は経験値だとよく言われます。経験していないとその価値が前もって予測でき

	<p>ないので、その行動に移らないという事があります。とくにこどもの体験格差というのが重要な課題であると思います。</p>
<p>(田中麻里委員)</p>	<p>事前に資料をかなり読んできましたので、いろいろ質問したいことがありますが、時間に限りがございますので、お聞きしたいことはまた改めてさせていただきます。</p> <p>今いろいろなお話も聞いて、それから事前に考えてきたことの中で、まず大きく思ったことは、「松江の文化を生かしたまちづくり条例」についてです。</p> <p>委員に参加するという事で初めて読ませていただきました。そして松江市民劇場の役員に、この条例を知っているかと聞いてみましたが、知らない。それから、美術館などによく行く友達も知らないということでした。</p> <p>私の周りが知らないだけかもしれませんが、この条例を読ませていただいて、この7つの柱は松江の文化を表す、非常によい柱だと思いました。この条例を、「松江の文化を生かしたまちづくりを進めているんだよ」ということを、松江市が市民の方にもっとアピールしていただきたいなと思いました。方法についてはホームページとか、いろんな場面があると思います。</p> <p>それから、かなりいろいろ細かい事業を、きめ細かにやってらっしゃることがわかりました。松江市が文化でブランディングしていくためのよい条例だと思いましたので、ぜひ周知をお願いしたいと思います。</p> <p>それから、松江市民劇場という団体を考えた場合、大変高齢化が進んでおります。私も役員になって2年ですけれども、20代の頃から会員で、その会員がずっと年齢が上がっていき、今は会員数が570名でだいぶ少なくもなり、そのうちの半分以上が70代という、こういう状況でございます。</p> <p>皆様から意見が出ているように、若い方にどう情報発信をしていくのか、いろいろ話をし、SNSでの発信など話題が出ますけれども、なかなか実際にはどうするのかと。みんなボランティアですし、誰がやるのかと。事務局長が一人しかなくて日々の業務に追われています。</p> <p>それで今日、園山委員からも小野委員からもご提案がありましたとおり、SNSはやはり若い方に届くということはあると思うので、どのように情報発信したらいいかということ、松江市主体でも結構ですが、ぜひそういうことを学ぶような機会があれば、それぞれの団体がもっと情報発信できるのではないかと思います。</p> <p>それから、私の中でも大きな関心が、以前、県職員の仕事をやっていた中でも後継者の育成についてです。</p> <p>この事業の中で関心がありますのは、カラコロ工房の活用と職人商店街のところですね。これについてちょっとご質問させていただいてもよろしいでしょうか。</p> <p>まず、カラコロ工房を変えられて、今どういう評価をしてらっしゃるのか。それから先ほどお店も変わるということで物産販売所も確か店舗が変わったということですが、どういう状況かということをお聞かせいただきたいです。</p> <p>それと工芸のギャラリーを設けられましたが、それがどのように利活用されているのか、それが2つ目の質問です。</p>

	<p>もう1つは職人商店街で新しく認証制度を設けられましたが、その内容について、この3つは後でお答えをいただけたらと思います。</p> <p>やはり後継者の育成はすごく大切だと思っていて、県ではいろんな後継者育成するための補助金を出しています。もちろん活用していただきたいですが、松江市として、もう少しこの後継者という、先ほど佐陀神能の話もありましたけれども、何か支援メニューをお考えいただいてもいいのではないかとというのが私の意見でございます。</p> <p>今日、皆さんのお話を聞いて思ったことは、園山委員の、皆さん集まってもっと喧々諤々に、に賛成いたします。私も想像以上に、2時間で、この人数で、1人4分で限りがあるなか、一人一人が意見を言いつばなしになると思います。私が言ったことに対して、お答えして欲しいです。松江市さん大変かもしれませんが、皆さんからこうだよ、ということもあると思います。改めて全員でなくても、参加したい人だけでもいいかと思えます。小林先生だってもっと語られたいなと思っているはずですよ。ですからそういう機会を別に設けていただくと、松江市と私ども一方通行になっていますが、やはり意見は双方向でないということ、時間を設けていただけたらと思います。</p> <p>もう1つは、ここのメンバーを見ますと私も60代、もっと若い方の意見を聞かないと。先ほどから若い方の参加だとか後継者育成と言っていますが、やはり若い方の意見を聞く。審議会だと難しいかもしれませんが、そういう機会も設けていただいて、高校生大学生、もしかしたら小学生もあるかもしれません。そういう若い方がこの松江市の文化に対してどんな思いを持っているのか、知らないという人が多いかもしれませんが、逆にそれを知る機会になることがありますので、そういった若い方の意見を聞くという機会をぜひ設けていただきたいと思えます。</p> <p>意見としては以上でございます。先ほどの質問に少しお答えいただけたらと思います。</p>
(垣内会長)	<p>それでは3点、ご質問があったかと思しますので、事務局から補足説明をいただきたいと思えます。</p> <p>こどもの意見、中高生、学生さんのご意見などは、この条例を作るとき、そしてまた基本計画を作るときなど、その都度その都度いろいろな形でお尋ねをされているように思えます。</p> <p>この会議自体は進捗管理なので、事務局的には、いろいろな事業のKPIも含め、どう検証するか判断するか、ということが主たる目的です。ですのでなかなか参加者同士の意見交換の場というところまではいかないです。</p> <p>逆に有志の会をぜひ作っていただいて、いろんな方に呼びかけていただいて、ここからスピンオフする形で、意見交換の場を設けられるというのもあるんじゃないかなというように思えます。</p> <p>それをまた事務局にフィードバックして、事務局からのご回答もいただくということも十分できるのではないかと思いますので、ぜひそういう形でリーダーシップ</p>

	<p>をとっていただくのもよろしいのではないかと思います。 事務局の方から説明をお願いします。</p>
<p>(上定市長)</p>	<p>カラコロ工房は昨年10月にリニューアルオープンしました。日銀松江支店を活用し、これまでもある程度のにぎわいの拠点にはなっていましたけれども、訴求力が非常に弱かった、コンセプトが明確じゃなかったところがあります。</p> <p>簡単に言うと物販、飲食、そしてものづくりの拠点ということでリニューアルオープンしましたが、ものづくりの拠点というのは先ほども触れていただいた職人商店街とも完全に密接に関係しております。</p> <p>むしろ、北の職人商店街の一番のターミナルになるという事で、まさに点ではなく、そこまで線を作っていく、その役割を果たすのがカラコロ工房だとあえて「工房」という名前を残しました。ですが今となってみると、それが少々わかりにくいという評価もいただいています。</p> <p>例えば、イタリアンレストランだったりラーメン屋さんだったり、コーヒーショップがありますが、そのコンセプト自体はいろいろ表現できており、松江で永きにわたりご活躍された方が、カラコロ工房に拠点を移してやってらっしゃったりもします。</p> <p>ですが観光客に向いてるのか、市民に向いてるのかわからないということも言われもします。</p> <p>そして市民の皆さんには、カラコロ工房がある程度にぎわいの拠点になっていることもありますが、観光客の方がぱっと来たときに、実は景観上の規制もあることから壁に大きく広告が打てないため、外から見たときに入口自体が左の端の方で非常にわかりにくかったり、ここに飲食店舗があるということ自体も、なかなか視認ができません。その物自体がカラコロ工房という名前がついていますから、カラコロ食堂だったら別だったのだったかもしれないかもしれませんが、結果的に皆さんにどんどん通っていただく形にはなっていないというのが正直あります。</p> <p>実際の入り込み客数は、コロナ前よりは増えています。ただ、コストをかけて改修したほどの効果が上がってないということも実際のところですし、少し「てこ入れ」が必要な状況になっています。</p> <p>ご存じの通り、「地域おこし」という会社が、1階部分の物販飲食やっていましたが、会社が立ち行かなくなってしまい抜けられて、物販部門は「暮らしアトリエ」というところに引き継いでやっていただいています。飲食部分については狭い場所でありますけども、今はやっていない状況です。</p> <p>あと2店舗ほど入れ替わりしました。1店舗は後継者不足でいらっしゃらなくなり、もう1店舗は採算が合わなかったということでした。ただ、その1店舗については、北海道のパン屋が入りました。そこがもともとすごく人気があるところで今は行列ができています。</p> <p>そのため、ある意味今は少し「種々雑多」になっているというのが否めなく、どこかで整理が必要だと思えますし、松江市としてもある程度インフラにお金をかけて、皆さんが寄り合いたいと思える場所にしていかなければならないと思うので、そう</p>

	<p>いう点において岐路にあります。</p> <p>職人商店街は、今 10 店舗ほどに育っています。その回遊性が高くなれば、街並みを歩いてもらってカラコロ工房も含めて訪れていただけます。</p> <p>認証制度というのは、まさに松江市として、職人商店街というラッピングをして、共通の看板などを取り入れようと思っています。</p> <p>相互に紹介するようなもので、前回まで委員でいらしゃった山本様(山本漆器店)のところへ行ったら、今度は彩雲堂さんの和菓子作りもできるよ、というような「ものづくりの連鎖」を行うことによって回遊性を高めていく、滞在時間がアップしていく、そして松江の特徴をもう少しわかってもらう、というようなことを今後行っていきたいと思っていますので、認証制度についてもこれから取り組んでまいります。</p>
(垣内会長)	<p>ありがとうございます。これから育てていくというところでしょうか。</p>
(原田委員)	<p>まず、こどもに関する事業が引き続き継続しているのを見せてもらって良かったなと思います。ふるさと教育の中でも、伝統文化芸術に触れる授業というのがあると思いますが、これもぜひ継続してもらいたいと思います。</p> <p>それと、今までも言っていますが、やはりバス代を補助してもらうのは大きくて、それによって森の演劇祭でも、学校のクラス単位でということもできます。そういったところに出掛けるということは、やはり交通費がすごくかかり、郊外の学校にとってみたら大きいことですので、それを補助してもらおうと助かるので継続してやっていただきたいと思います。</p> <p>そして本当はプラバホールのリニューアルのときに、市内の児童をみんなプラバに呼ぶという事業をぜひやっていただきたかったですけれども、それもバスの輸送がということで難しかったと聞きました。</p> <p>それでもプラバで、先ほどもあったような親子の無料招待というような企画もあるので、それに関してはしっかりと呼び込んでいただいて、体験してくれる親子でいつもいっぱいとなるよう、それこそ周知かもしれませんけれども、そのあたりについても私も含め、やっていきたいなと思います。</p> <p>実際利用された親御さんに話を聞くと、この企画があったことで鑑賞機会が増えたと喜んでる人もいっぱいいるという話を聞きましたので、ぜひお願いしたいと思います。</p> <p>それと今、部活動の地域移行が進んでいまして、これからクラブチームという組織も多くなると思います。部活のときには、家庭の日をつくるなど、いろいろと学校の制約みたいところで、ストップがかかるとまでも言いませんが、行き過ぎないルールがありました。ですがやはりクラブチームとなると、クラブ内の活動に全力を注いでいきますので、地域に出て行けなくなるのではと、懸念するところであると思います。</p> <p>そうなると、クラブチームをそのまま地域のイベントへ持ってくるなど、例えばクラブチームというのは、お金、予算が必要になるので、そういったときに何かイベントに出て、物販で資金を集めるとか、そのような関わりももしかしたらできるのではと思っています。こどもを個人的に呼んでこようとするとなかなか難しいというのものもある</p>

	<p>と思うので、クラブ単位ごとにそういうこともして欲しいかなと思いました。</p> <p>続いて、一昨日の給食で「あげそげばけのパッケージ」で「のり」が出たということ、こどもから聞きました。ちょっとしたことですが、うちの子は特に朝ドラが好きなので、「今日こんなのが出たんだよ」と教えてくれました。</p> <p>そういうちょっとしたことがこどもの好奇心をくすぐるということもあるので、大きい事業をするのも大事ですけども、内輪でちょこちょこ話題になるような仕掛けというか、そういうことも大事かなと思います。</p> <p>こども向けの八雲とセツの冊子がどのようにこどもに配布されるのかというのはちょっと分からないですけども、あれに関しても、もうこどもはみんなタブレットを持っていますので、差し当たりその数をそろえるのは大変かもしれませんが、データで配布したり、そういうことができるかなというように思いました。</p>
(垣内会長)	最後のところ、こどもたちへの周知についてお願いいたします。
(今岡課長)	<p>皆様のお手元に配らせていただきましたのは中学生以上から一般の皆さん向けに作らせていただきました冊子です。また小学4年生から6年生向けの冊子も作っております。</p> <p>いずれの内容につきましても、小泉八雲とセツが会うまでの人生の流れを追うもので、また出会ってからをできるだけビジュアルにお示しして、興味関心を持っていただきながら読み進めていただけるようにとお作りをさせていただいたものでございます。</p> <p>こちらにつきましては、まず一般向けの冊子は中学校、高校、公民館、中央図書館、東出雲図書館、島根図書館に配備をさせていただきました。</p> <p>また小学生向けの冊子につきましては、市内全学校の4年生から6年生の各教室、特別支援教室の各教室に必ず配備をし、また学校の図書室にも配備をすることにしております。</p> <p>そして、公民館、市内の市立図書館ともに配備し、まず、生活していただいている場また地域で訪れられるような施設で目に触れて取っていただき、ご覧いただけるようにさせていただいております。</p> <p>加えて事業の中でも紹介いたしました出前授業と出前講座というものを展開して参ります。こちらにつきましては、おそらく1回の授業や講座で約20名30名ほどの参加になると思いますが、そちらでもストックの限りというところではありますが、参加者の皆様にその冊子をお渡しするという取り組みを行ってまいります。</p> <p>どうしても配布できる数には限りがありますので、ホームページ上にダウンロードいただけるよう掲載もしております。できる限り、幅広く皆様にご覧いただけるように取り組んでおります。</p>
(上定市長)	<p>この冊子を編集していただいたのは羽田昭彦さんという松江市出身で、文芸春秋とか週刊文春の副編集長やってらっしゃったのプロの方です。</p> <p>松江のご出身ということで特別に取り計らっていただきまして、手上げ方式でリクエストをお受けする形ですが、この方自身が出前講座で実際に小学校、中学校に出か</p>

	<p>けて講演をしていただいています。</p>
<p>(松原委員)</p>	<p>個人的なことですが、私も小学生のこどもがおりまして、親の立場からすると、親はこどもにとにかく体験をさせたいです。体験イベントにはものすごく目をギラつかせて探しているような、そして学校から持って帰るチラシにも食いついて、体験と書いてあると申し込みます。</p> <p>地域の公民館さんがされているゴズ釣り大会でも、遅れるともう申し込みがいっぱい入れないということがよくあります。こどもに向かっての体験に関しては、親をターゲットにして、親に向かってとにかく知ってもらう、というのが大事なのかなと思います。</p> <p>実は私の住まいは米子でして、米子市文化ホールでは、劇場の舞台裏を覗いてみようというイベントがあり、うちの娘も参加しました。舞台裏ですから照明体験、大道具体験、それから実際ステージに立ってどう感じるか、とうものです。そういう体験をした後は、「あなた今日からホールの一員ね」という証明書を最後に渡されて、「いつでも働ける」と嬉しそうにしておりました。</p> <p>そのような感じで伝統文化や演劇体験というのは、手を替え品を替えできるのではないかと思っております。</p> <p>私はガイドですので、あちこちでツアーをしますけれども、あちこち行く中でどうしても松江市内中心部のイベントが多いよね、というはよく聞く話です。</p> <p>安部栄四郎記念館に行く機会があって、そこの方が「こちらの方では全然してくれない」という話を伺いました。人間国宝ですから、伝統文化、それから和紙の伝承をどう伝えていくのか、生活の中の和紙ということで、決して芸術ではなくて民芸なわけで、それをどうやって伝えていくのかというのを、今、いろいろ試行錯誤されているという状態です。</p> <p>同じく北側で、四十二浦めぐりということでガイドをすることもありますが、そうすると島根半島、日本海側では、たくさんのお祭りが今もまだ残っています。これは非常に貴重なことです。たった1、2キロ離れただけでも、違う文化、違う祭り、というのがあるということをご残して欲しいなと思います。</p> <p>何とか松江市内、お城やその周辺に来た人たちを、「ばげばげ」もありますから、加賀の潜戸から、日本海側、島根半島の方に引っ張っていけるルートを模索していただけると非常にありがたいと思います。</p> <p>また、SNSの発信についてです。なかなかツアーを自分たちで企画しても、周知がうまくいかないというのは、ジオガイドの会でも悩ましいところではあります。</p> <p>ですが、別の団体が美保関で、「美保関水族館お話し会」というイベントをされました。昔、水族館が美保関にあった、しかも4つが点々としながらあった、というその痕跡を研究されて、過去を知る、それだけのイベントですが、好きな方は大阪からやってこられます。どこで聞きつけたのかというと、その主催者さんが海遊館や城崎の方へチラシを送っていた。それを見て、「これは絶対行かなきゃ」とすぐ申し込まれたようですので、刺さるひとには刺さるというのが現在のツアーのあり方なのかなと思います。</p>

	<p>その未知なるものが自分の趣味嗜好に合致すれば、どれだけお金がかかっても出そうとするというのが、今の人たちの流れではないかなと思います。</p>
(垣内会長)	<p>推し活などという言葉もあります。自分の気に入ったものにはたくさんのお金を使うという方もおられます。</p>
(森山委員)	<p>7つの柱と茶道は非常につながりが深いです。</p> <p>先ほどから話題になっておりますカラコロ工房には菓子作り体験や、茶道体験もできる茶室もできておりますし、それから職人商店街、特に私は明々庵で観光客の方といろいろお話をしますけれども、職人商店街では確かにお菓子屋さんでお菓子を作ってもらって、それは見てわかる。ただそれをやはりすぐ食べられるような、ちょっとしたオープンテラスのようなものが作れないかと言われます。そうすれば市民の方はもちろん、観光客の方も作りたてが食べられる。そういったその場でいただける工夫があると、より一層まちあるきも楽しいし、市民も職人も、そして観光の方も、松江の文化を知っていただくいい機会になるのではないかと考えています。</p> <p>そして先ほど冒頭に紹介がありました、松江の新しいキャラクター「おまっちえ」。確かに「まつえ」が入っていますが、何となく抹茶に聞こえますので、茶道会派の皆さんは、非常にこの「おまっちえ」に期待をしておられます。</p> <p>ただそのおまっちえを今後どういう生かしていくのか、そこはまだ見えない。特に京都の家元の先生方が、やはり抹茶に反応されて、さらに松江は、いろんな形で抹茶を発信すると関心を持ってもらってらっしゃるようですけども、今後どのようにおまっちえを活用していかれるか、もう少し見えたらいいかと思います。</p> <p>様々な形で抹茶に興味を持ってもらっていますが、実は茶道会をとりまく抹茶をめぐる環境が今非常に悪いといえます。というのも、マグで飲むお抹茶がインバウンドで非常に盛んになっていまして、このお抹茶の元となりますのは、碾茶(てんちゃ)ですが、碾茶は入札制度です。入札制度によって業者が決まり、各お店へ行くのですが、県外に出そうという業者さんが大量に購入する。そして、価格が上がるという大変な状況を迎えておられて、実はお盆明けから、同じお抹茶でも2.5倍に高騰しています。</p> <p>東京では、非常に抹茶がブームになっていまして、新しいカフェで抹茶専門カフェのようなものがたくさんできています。1つ嬉しいことは、当然インバウンドの方が半分以上、そして日本の方が半分ぐらいですが、若い方が非常に多いということで、後継者育成に寄与しているのではないかと考えています。</p> <p>ただ1つ心配しますのは、矢継ぎ早にお店はできますが、タピオカブームのような一時的なブームにならなければいいかと心配をしているところです。</p> <p>そして各流派・会派の皆さまより、やはり後継者育成ということを嫌というほど耳にしております。そしてお手元に「文化フェスタ～親子で学ぶ松江の文化体験～」のチラシをお配りしていると思いますが、初めての試みとして文化庁の補助を受けまして、この10・11・12月にかけて、島根県茶道連盟が主催で、日本旅行さんに協力をいただきながら、ここに書いてあるような事業を展開していきます。</p>

	<p>その中には当然抹茶だけではなく、民芸紙でつくったちぎり絵体験や、生け花体験、そば打ち、花もちづくり、変わったところでいえば出雲弁で楽しむ紙芝居など、とにかく親子で楽しんでいただき、抹茶・茶道に対しても、少し興味を持っていただくという発信を12月にかけてやり、後継者育成のために力を入れております。今のところ、ほぼ定員には達しているということで人気をいただいております。</p> <p>茶道をとりまく環境は非常に厳しいですが、いま管理しております明々庵には、インバウンドを含め多くの観光客に来ていただいております。特にやはり一昨日から「ばけばけ」が始まりまして、個人でいらっしゃる方が非常に増えています。</p> <p>ただし、前にも申しあげましたように、松江歴史館から北側が双方通行であり、松江市民は歩道があることが分かりますが、一般の方はどうしても南に行かれるときに溝蓋の上を、いわゆる縁石もないようなところを歩かれます。そうしたら後ろから急に車が来て、非常に怖い思いをしたといったような声も聞かれました。なかなか毎日は難しいと思いますが、せめて土日祝の10時～16時ぐらいの間、レイクラインの関係もありますので、南から北向きの一方通行にさせていただいて、南に行く方はやや遠回りになりますが、商工中金のあたりを通過していただくようなことを少しお考えいただけないでしょうかと思います。</p> <p>これから「ばけばけ」人気で、界隈を散策される方が非常に多いと思いますので、またそういったことについてご回答をいただければと思います。</p> <p>市民、観光客の皆さんの声をお話させていただきました。</p>
(垣内会長)	<p>広報に関するご質問もありましたけれども、後ほど今後の動きを情報提供していただきたいと思います。</p>
(小泉副会長)	<p>7つの柱のうち、小泉八雲に関する柱で、情報発信、学習機会、後継者育成、資金確保、という点でのコメントを申し上げられたらと思います。</p> <p>皆様からのご支援のもと、「ばけばけ」も無事にスタートして、9月に入ってから、小泉八雲記念館にも1日平均70件の依頼のメールが届いております。単なる画像の借用依頼もありますが、多くは講演や、取材・インタビュー、テレビ番組出演の依頼がものすごく増えてきております。全部はお受けできませんが、こちらから発信しなくてもどんどんアプローチがくる稀有な機会ですので、有効に活用するよう努力しております。</p> <p>最近では週刊文春とか、女性自身といった週刊誌、写真週刊誌のアエラ、各種新聞の取材もたびたび都内で受けるようになっております。それらはデジタル版もありますので発信という点では、非常にありがたく思っております。</p> <p>ただこれは「ばけばけ」特需でして、いつまでも続くものではありません。せいぜい来年の上半期ぐらいまでではないかなと思っています。それ以降はまた改めて、しっかりと自分でもSNSで発信してくようなことをしていかなければと思っています。</p> <p>今月に入ってからアイルランドのテレビ局(ゲール語放送)からの取材も受けましたし、一昨日はイギリスの雑誌社の取材を受けました。今「ばけばけ」というドラマ、そこに描かれている八雲とセツに、日本だけではなく、八雲のゆかりの世界の国々でも</p>

	<p>注目が集まっているのだと思います。</p> <p>それから、学習機会については、少し複雑な思いを持っています。ありがたいことに、夏ぐらいから小泉八雲記念館の入館者が1.5倍以上に増え、展示が見にくいほどの混雑も発生しています。この秋からは予約システムも導入しています。そこで来館者のスペースとスムーズな流れを確保するために、2階の多目的室を展示室に衣替えしました。従来多目的室は学習室的な意味合いを持っていて、小学生に来てもらったらそこでレクチャーをする、或いは大学生の授業もそこでやっていましたが、そこを展示室に変えないと人の流れが停滞してしまうため、泣く泣くといひましようか、先週ぐらいから展示室に変えて、新しい展示映像を投入しています。そういう意味では、記念館に来ていただいて、レクチャーして、館内を案内するということが今はできにくい状況になっています。</p> <p>しかし、先ほど市長も言われましたように、羽田昭彦さんに出前授業をしていただくことができるようになり、こども向け冊子ができたということ、それから私も塾長をしております、「こども塾スーパーへるんさん講座」の参加校が増えているということで、とりあえずここ2年ぐらいは対応していけるのではないかと考えております。ですがこのバブルが終わったら、また元に戻して、着実に教育の場を提供していかなければならないというように思っています。</p> <p>次に後継者育成についてです。いろいろな依頼が来すぎて、自分では受けられないということで、学芸スタッフ3名に無理やりお願いしたり、或いは島根大学の宮澤文雄先生、県立大学の三成清香先生をお願いしたりしています。でもそれが幸いして、後継者育成につながったように思うのです。</p> <p>宮澤先生は今、西田千太郎の旧居の保存活用運動もしていっしょにいますし、三成先生は小泉セツで博士論文を書かれた方です。「ばけばけ」が始まった今、社会に大いに貢献できる方々が見つかったのです。</p> <p>資金確保に関してですが、記念館・旧居は、年間収入がかなり増えると思っています。それをできるだけ、小泉八雲関係の施設や文化イベントに還元していただきたいと思います。文化振興課は昨年度から上限30万円で記念イベントの支援等をしてくださっていますが、場合によってはもう少し助成金の増額ということもあっていいのではないかなと思います。</p> <p>今森山さんが言われましたように、非常に観光客も増えていますので、塩見縄手の一方通行をぜひ実施していただきたいというのは私たちの切なるお願いです。おそらく県との協議も必要となるでしょうが、今島根県も大変積極的で、松江市ができないことを県がやりましょうというスタンスで出て来てくださっていますので、ぜひ、県と協議していただいて、観光者や地域住民の方たちの安全のためにも、このあたりの改善を進めていただければと思っております。</p>
(垣内会長)	<p>時間も押してきておりますが、3点だけ私からコメントさせてください。</p> <p>まずコロナからの戻りが全国的に意外と遅いといひますか、いったん途切れるとなかなか復活していかないところもあるようです。</p>

	<p>KPIについては、よりきめ細やかに、具体的にどこがどうネックになっているのかということを検証していただきたいと思います。</p> <p>それから松江的景観、これは松江が持つお宝であると思いますが、回遊性も含めたまちづくりの一つとして、規制をかける部分と規制を緩和する部分とのバランスが非常に重要であると思っています。景観計画を松江市でもお持ちだとは思いますが、より細やかに、どのくらいの強さでどのくらい規制をかけるのかという必要な仕組みを考えていくといいのかなと思います。</p> <p>世界遺産登録であればバッファゾーンの話が漏れなくついてくるでしょうし、重伝建であったり、文化的景観であったりというようなことについても、やはり実際そこにある基礎自治体の意欲を示すという部分も出てくるかなと思いました。お宝をうまく生かしていくための資金作りも必要であるかなと感じました。</p> <p>それから情報の話ですが、人口20万人くらいの地方自治体を持っている施設を先日調査しました。驚いたのは、いま紙からデジタルへの移行期のような感じで、高齢の方はどちらかといえば紙媒体が多いですけれども、実はXを使っています。中高年の方はインスタを使っていて、若い人はどうかというと、意外にポスター・チラシ、それからホームページ、市報といますか市が出している情報。どうも市報で情報を取って刺さればホームページ、ホームページからさらにいろいろなところにあたっていくというルートが若い方でした。</p> <p>高齢の方は大体レギュラーでお客さんになる方が多いので、紙媒体で最終的な確認するということがあるようです。</p> <p>市報というのは最初のファーストコンタクトで非常に重要なものと、マスコミがどの世代でもほとんどなかったのは驚きでした。</p> <p>ですので、地域によって違うのかもしれませんが、利用する媒体について1度少し検証された方がいいのではないかと思います。SNSで発信し待てば届く、という簡単なものでもなさそうだという感じがしたのでちょっとその情報を共有をさせていただきました。</p> <p>それと拡散について。情報拡散の時代なのでホームページにきちんと情報を出していると、それを引用して、SNSやLINEなどの自分たちが好きな媒体で、自分たちのコミュニティで共有するようですので、市が丁寧に全ての媒体に何かをするという必要はないのかなというような感じもしました。情報につきましては、まさに動いていくものなので、実態を踏まえながら検討していただければと思います。</p> <p>時間がまいりましたが、最後に市長より一言お願いいたします。</p>
(上定市長)	<p>本日はありがとうございました。皆様より丁寧なお話をいただいて、皆様それぞれのお立場の中から具体的に見聞きされた実体験のお話をしていただきましたので、今日いただいたことが双方向になるように、このように対応しましたということ、フィードバックを必ずさせていただきますのでよろしくお願いします。</p> <p>情報発信の話がたくさんいただきました。私も、SNSだけでは駄目だと思っていますし、うまくアナログとデジタルを絡めて訴求をしていくということ、広報課という</p>

いろいろ検討しているところです。

その中で、例えば先ほど言っていた市のイベント情報などについては「松江ナビ」を新しく立ち上げております。そこには市の職員だけではなく、民間の方にも情報を入れていただいて、スクリーニングの中で皆さんに情報共有できるシステムを整えています。今年1月にホームページの全面改訂をしましたり、子育てのための特設サイトをつくりました。

また、今「ばけばけ」がスタートして、「443(しじみ)」という特設サイトがスタートしました。小泉八雲は、1年3ヶ月を松江で過ごしており、その1年3ヶ月を数字でカウントしますと、443日になります。「しじみ」になるのですね。ということ職員が発見いたしまして、そういう訳で「443」のサイト立ち上げております。

そういったことも含めて、ちょっと楽しい、面白い話題についても訴求できるようにこれから心していきたいと思っています。

ちなみに私2月にフランス、アイルランドに行く予定でございまして、そこへも例えば佐陀神能の動画コンテンツを持ってきたいと思っておりますし、TikTokに限らずですが、動画の訴求力は非常に強いので、SNSをしっかり活用したいと思っています。

先ほど皆様から言っていたような機会、垣内先生にも補足いただきましたように、どこでSNSを活用して情報発信するのか、或いは他にもデジタルについて、まさに小泉八雲記念館では今電子チケットを導入しており、混んでいる時間の見える化が図れるような、そういった工夫もし始めています。そのようなことも含めて、松江市文化協会もありますので、何か皆様と情報共有をし、意見をいただき、またブラッシュアップや横展開できるような機会というのを今後設けたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

そしてこどもの体験について、これも本当におっしゃるとおりで、例えば先ほどありましたように米子市のような、実際に体験ができるようなことをプラバホールでもやっています。こどもたちや、障がいを持った方、耳が聞こえない方も音が実際に響きで伝わってくるという体験をやっていますが、知ってる人と知らない人がいるので、なかなか手上げ方式をしても、網羅的に皆さんが来ていただけるようにはなっていません。

一方で、少し話がずれますけども、今小学校3年生はシジミ漁ができます。これは学校の手上げ方式になっています。小学校6年生は全員、申し訳ないですけど、強制的に松江城に登っていただきます。単に登るだけではなく、裏から見たときに、石垣が何でこんな組み方になっているかというのを、本当の大工の方にしっかり教えてもらいます。そのあと松江歴史館へ行って江戸時代だけではない歴史を学びます。これは強制力を伴っています。

もう一つ、今年から強制力を伴うものを始めていまして、この1月から「MATSUE WAKU WORK」という職業体験イベントを始めました。商工会議所と組んで、61の松江の民間企業・団体が出展し、いわゆる「キッズニア」のようなイベントをやっています。

す。

昨年は1,806人でしたが、中学校2年生が強制的に行かされます。そこでは松江にはこんな仕事があるということを見てもらう機会をつくっているの、それを通じて中学生が「自分のやりたい仕事が見つかった」、「松江で今後もこういう仕事をしていきたいと思った」というアンケートの結果も出ています。

体験については先ほどおっしゃったとおり、すごく重要だと思います。当時の私には全くそのような機会がなかったもので、松江には何も無いところだと思って育ってしまいましたから、そうならないようにしていけないと思っております。

職人商店街を含めてまちの回遊性を高めるということについては、今、自動運転に取り組んでいます。他にもレンタサイクルであるとか、電動のスクーターと言われるようなカートについても現在取り組んでおまして、自動運転は10月からソフトバンクと一緒にJR松江駅から、ソフトビジネスパークへのくまびき通りに導入します。そういう交通機関の線でつなげていくということが回遊性を高めることになりうると思っておりますので、そういったところもまたあわせて進めていこうと思っております。

もう一つ、「小泉八雲ゆかりの地給食」いうのを今やっています。これは小泉八雲が過ごした松江市、焼津市、熊本市、アイルランド、ニューオーリンズの名産やゆかりの食べ物を給食で出しております。この間、私も中央小学校と一緒に食べましたが、子どもたちに小泉八雲を身近に実感してもらう、そういうことも含めて小泉八雲について知ってもらう機会というのをこれからも増やしていきたいと思っております。

それとですね、「おまっちゃん」について言いますと、今度10月26日に松江市合併20周年の記念イベントをプラバホールでやります。実はいま着ぐるみが育っておりまして、そこで初めてそれが初お目見えするタイミングになるのではないかとということで準備を進めております。先日は万博へ行ったり、東京島根県人会に行きPRし、そこでも皆さんが待ち受けております。目指せくまモンでやっておりますので、皆様にもぜひご支援をいただきたいと思っております。

最後に、垣内会長からおっしゃっていただいた景観については、順次景観の計画を見直して規制を強化しています。ただおっしゃる通り、これはバランスの問題だと思っております。開発する余地もきちんと残していけないといけません。

例えば松江駅前の一畑百貨店が去年の1月に閉店してから、賑わいが乏しくなっていますが、あそこは規制の対象にしておりません。ですので、メリハリをつけて、松江を守らなければいけないのは当然ですけど、そうではところについて発展がそがれるようなことがないようにしたいと思っております。

松江は何か新しいことがやりにくい場所だな、ということ逆を逆にしたと思っております。風景をきちんと生かした上で、新しいものをどんどん導入していく場所です。まさに小泉八雲なんですけれども、そういった発信をしていきたいと思っておりますので、景観規制は来年の4月まで、最終的に整うまで時間がかかりますけれども、これからもしっかりと進めて参ります。

	<p>皆様には引き続きご意見をいただきまして、我々もきちんと消化をした上で、フィードバックさせていただき、着実に1歩1歩前に進めていきたいと思っておりますので、どうかご協力のほどよろしくお願いいたします。ありがとうございました。</p>
(垣内会長)	<p>ありがとうございました。</p> <p>多様な活動を非常に細部まで配慮して展開されているという、心強く拝聴いたしました。</p> <p>また、一步一步着実に進め、また先生方へフィードバックがあるかと思っておりますので引き続きよろしくお願いいたします。</p>

7. その他	
(垣内会長)	<p>以上ですが、その他事務局から何かありますでしょうか。</p> <p> <<発言なし>></p> <p>以上で、予定していた内容はすべて終了いたしました。それでは、事務局へお返しします。</p>

8. 閉会	
事務局 (桑原部長)	<p>垣内会長、円滑な議事進行をいただきありがとうございました。また、本日は、委員の皆さまからは大変貴重なご意見を頂戴し、本当にありがとうございました。</p> <p>本日、皆さま方からいただいたご意見もとに、今後の取り組みに反映できるようにしたいと考えます。</p> <p>次回審議会は来年3月に予定しておりますが、詳しい日程につきましては、後日改めて事務局からご連絡いたします。</p> <p>その間、メールや電話などで情報共有させていただき、ご意見をいただければと思いますので、引き続きご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。</p> <p>以上をもちまして「第10回松江市伝統文化芸術振興審議会」を終了いたします。皆様ありがとうございました。</p>